生徒会長で魔女で。

岡崎 朱羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
生徒会長で魔女で。

【Ｎコード】
Ｎ７５６４Ｆ

【作者名】
岡崎　朱羽

【あらすじ】
私は生徒会長で魔女なんです。女神様。女の子ライフって楽しいわね。

プロローグ

ピンク色の長い髪は風によってなびいいている。ストレートにおろしているからだろう。赤い縁の眼鏡がトレードマークの彼女こと『鈴原（すずはら）　乙女（おとめ）』。

私立自由高校の生徒は皆、彼女をこう呼ぶ『生徒会長』と。

女の子になりました。

「ここかぁ…。」俺、鈴原（すずはら）　音名（おとめ）。正直、この名前を嫌っている。女みたいな名前だから、コンプレックスを抱くのさ。ま、とりあえず今日から俺は高校生って訳だ。

「鈴原　音名です。よろしく」毎度ながら恥ずかしい。自己紹介なんて飽き飽きする。ここに入ったってどうせ…また転校させられる。

もう、秋か。俺達の高校はもう生徒会選挙だ。生徒会なんて、やりたい奴らでやっていればいい。俺は…。

「あなたは、転校したくないのね？」誰だ？
「私は女神」は？
「あなた、転校したくないのでしょう？」
「ああ。親父の仕事の関係で転校してきた俺には友達らしい友達なんていないからな」
「条件があるわ。」
「それで転校しなくなるなら」
「いいでしょう。契約です」。そうして女神はスッと消えた。

ジリリリ！！目覚まし時計がなる。
「うっせ～。あれ？」とどかねぇ。なんでだろう？ってか声変じゃね？
「あ～」高い。まるで女みたいだ。ま、起きるか。『ボイン！！』
は！？なんだその効果音は。まるで胸が膨らんだみた…い？ムネェ～！！どうしよう。俺、女になっちゃったよ。
「うるさいなぁ…。」母さんだ！！どうしよう！！
「おとめちゃん？」
「えと。朝、目覚めたら女になってました」
「あ、私の為に神様が女の子にしてくれたのね～」脳天気な母め。

リビングにて。
「女神様ねぇ～。グッジョブ♪」
「なんで？」
「娘が欲しかったからよ♪」なんだそり！！
プルルル！！
電話か。
「はい。もしもし。うん。わかったわ。」
「何だって？」
「お父さん。来週から単身赴任するんですって」なに！？マジか！？すげぇ。
ピンポーン！！
誰だよ朝から。
「は～い。」
「あ、女神ですけど。」うそぉ～！！つーか。インターホン使うんかい！！

女神訪問

「女神です」出たよこの人…。
「やっぱり、可愛くなりましたね。音名さん」
「…」
「あなたが女神様ですか？」
「ええ。願いを叶えあげた条件は『一生今とは逆の性別で過ごす事』なんですよ～。せっかくなので、とびきり可愛くしちゃいました♪」
「ありがとうございます」なんすか？この会話。まぁいい、願いは叶った。後は友達を作ることに専念せねば。
「ママ。あたしの服とか買いに行きたいんだけど」もうヤケクソだぜ！！
「了解。今すぐに行くわよ」。こうして私は下着やらを買いに出たのだが…。

「う～ん。こっちもいいかも～。」てな感じで女神様も自分用の下着を選んでたりする。因みに私、Dです。
「これに決めたわ」決まったらしい。そういえば学校にはなんていえばいいのよ。ま、いっか。
「あ、そうそう。おとめさんには魔女になったのです。これから人の為に魔法を使うのです。それがもう一つの条件です。」
「え！？じゃあ、魔法であたしが最初から女の子だって事にすれば」
「問題なしね」。そっか、その手があったか。早速使わねば。

こうして私は、鈴原　乙女となった。最近じゃ、友達もできたし。女神様ありがとう。
「そういえば、そろそろ生徒会長の投票締め切りだよ。」

「あ！！かかなきゃ」。前者は友達の御坂　みのり。後者が私。もうそんな時期だったか。

「それでは、来年の生徒会長は鈴原　乙女さんで決定ですね」なんですとぉ！？

その少年は沢木　勇人。（前書き）

大変お待たせしました。

その少年は沢木　勇人。

大分ぶっ飛んで四月。

バン！！

「あたしが生徒会長の鈴原　乙女です」。体育館にて只今入学式中。

校門にて。

「ハァ、ハァ、ハァ。入学そうそう遅刻なんて俺もついてねぇな」。

金髪の少年が体育館目掛けて走っていた。

俺、沢木　勇人。今年から高校一年になる男だ。特徴は天然の金髪赤眼であること。

「え～であるからして…」ガラガラと体育館のドアが開けられた。

金髪の少年が入って来た。誰もが振り返った。

「…君は沢木君だね？遅刻はいけないよ」沈黙を破ったのは乙女だった。

「す、すいません…。」とだけ言って彼は自分の席に着いた。それから３０分後に入学式は終わった。

一年の教室にて。
「沢木。今回はなんだ？初日から遅刻たぁ、いい度胸してんじゃねぇか」勇人に話し掛ける少年がいた。
「朝霧。また、人助けだよ」
「好きだねぇ。とりあえず、高校でもよろしく。留年だけはするなよ」
「わかってる」そんなやり取りが終わると同時に一人の女性が部屋に入って来た。彼女は１－Ａの担任、沢木　遥だった。
「今日から担任になった沢木　遥よ。よろしく。…勇人。後で職員室に来なさい。いいわね？」
「わかったよ、姉さん」。遥と勇人。二人はよく似ていた。姉弟なのだから当然だが。

「まったく。どうして初日から遅刻なんてしたのよ」
「人助け…」「また？でも、ほどほどにしなさいね」
「ああ…。」
「それから。学校では先生と呼びなさい。わかった？」
「ああ」二人は会話を終えた。そして勇人はそそくさに職員室を出ていった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7564f/

生徒会長で魔女で。

2010年10月10日19時30分発行